

令和7年度実施の文化推進事業助成対象事業 (令和6年度決定事業) の評価結果

【総合評価】

- 1 令和6年度に助成決定した「文化創造・発信事業4件」及び「文化団体活動4件」については、令和7年度中におおむね事業計画どおりに実施され、当初の事業目的を達成することができたと認められる。
- 2 文化創造・発信事業の事業者は、中央区文化推進事業助成審査会（以下「審査会」という。）が招集した中間報告会（令和7年7月開催）及び最終評価報告会（令和8年3月開催）に出席し、実施状況等をつぶさに報告した。その際、審査会委員の専門的な助言については、その後の事業の運営や展開に意欲的に活用する姿勢を示していた。
- 3 文化創造・発信事業4件は、いずれも中央区らしさを有する地域に根ざした文化事業であり、中央区の伝統工芸の発展や新しい文化の創造・発信につながることを期待できる内容である。

また、4件の文化団体の活動は、地域に根づく芸術文化活動を長年にわたり展開・発信している。

以上、どちらについても本助成制度を活用することで、区内文化の振興に貢献したものと認められる。

今後とも、これらの事業及び活動を継続し、さらなる発展を遂げるためには、区内の他の関係団体や文化事業者と連携を図るとともに、後継者やスタッフの人材育成、活動財源の安定的確保などにも引き続き取り組んでいくことが必要である。

【各事業の成果】

- 1 文化創造・発信事業助成 4件

銀座たてももの新聞プロジェクト

VRや展示、上映会、新聞などを通じて、昭和期の建築や銀座の文化を幅広い世代に伝えることができた。特に、奥野ビルを再現したVR展示は、若年層の関心を集め、世代を超えた交流の場となった。

また、建築やデザイン、地域文化を総合的に紹介し銀座の魅力を発信するとともに、失われつつある建築や街の記憶をVRや展示、記録として残し、次世代へ継承する取り組みを進めることができた。

宮田大「Dai-Versity」第4回 ～フランス音楽と狂言の世界

フランス音楽と狂言を融合した公演を実施し、クラシック音楽と伝統芸能の異分野交流を通じて、新しい文化表現を提示することができた。

また、小中学生が参加するワークショップを通じて、音楽や伝統芸能への興味・理解を深める機会を提供することができた。

舞踊と和楽器で辿る中央区史2025

舞踊と和楽器を用いた創作公演や研究発表、動画公開を通じて、中央区の歴史や伝承を題材にした地域文化の発信を行うことができた。

また、伝説と史実の比較による研究発表を通じて歴史理解を深める機会を提供し、映像公開によりオンラインでの発信にもつなげることができた。

これらの取組により、地域文化への関心を高め、郷土史の魅力を伝える成果を得ることができた。

「江戸で養蚕」PJ

区内小学生向け体験で伝える養蚕・組紐の伝統工芸産業

中央区の小学校を中心に養蚕体験（桑の栽培・蚕の飼育・糸取り・草木染め・機織り）を実施し、多くの児童が参加する大規模な体験学習を行うことができた。

また、保護者や地域ボランティアも関わることで、地域全体で伝統産業を学ぶ機会を創出することができた。児童が伝統文化やものづくりの過程を体験的に理解し、地域への関心と学びを深める成果を得ることができた。

2 文化団体活動助成 4件

中央区第九記念合唱団 2025年度演奏会

「暮れの第九」発祥の地とされる中央区で、その歴史を踏まえ、区民参加により歌舞伎座での公演などを目的として平成19年に設立された団体である。これまで毎年12月には晴海トリトンスクエアで、区内在住・在勤者などによる三世代参加型の合唱団として無料公演を行ってきた。昨年に引き続き、令和7年12月29日に日本橋三越で開催された「三越の第九コンサート」にも出演した。また、令和8年1月24日には第一生命ホールで定期演奏会を実施した。

三世代参加型の区民合唱団として活動を継続し、地域の音楽文化の継承と発展に寄与するとともに、音楽力の向上や人材育成にも取り組んでいる。

ふるさとの文化を育む「新富座こども歌舞伎」

江戸歌舞伎にゆかりの深い中央区ならではの取り組みであり、地域の指導者や企業の協力のもと、子どもたちが歌舞伎の稽古を重ね、地元の例大祭に合わせて公演を行っている。こうした地域密着型の活動を通じて、古典芸能への関心を高めるとともに、「こども歌舞伎」を地域の伝統文化として根づかせ、継承していくことに取り組んでいる。

中央区交響楽団第 29 回定期演奏会・2023 冬のコンサート

地域に根ざしたアマチュア・オーケストラとして、区内の音楽ホールで定期的にコンサートを開催している団体である。常に新規団員を募集しながら、おおむね 5 月に定期演奏会、11 月に冬のコンサートを実施している。演奏会では未就学児の入場も可能とし、さらに平成 30 年の冬のコンサートからは入場料を寄附制とするなど、幅広い世代が気軽にクラシック音楽を楽しめる機会づくりに取り組んでいる。

蔦屋重三郎に思いを馳せて盆踊り

浜町音頭は、関東大震災の復興事業による浜町公園の竣工（昭和 4 年）を記念して誕生した音頭である。初めて「浜町音頭」をご覧になる方も多く、浜町音頭の歴史や活動内容を知っていただく機会となった。また、蔦屋重三郎の店「耕書堂」を思わせる装飾や浮世絵により、江戸時代の日本橋の雰囲気を楽しむ機会を提供した。

【中央区文化推進事業助成審査会委員】

委員長 大西珠枝

委員 陣内秀信、四ノ原恒憲、矢作勝義、新治 満